

座談会

女だけが頑張る時代にサヨナラ!

情報誌創刊にあたり、「男性社会から男女共同参画社会へ」をテーマに座談会の場を設けました。今回座談会に参加してくださった皆さんは、昨年開催された中九州都市女性交流会議に大分市から参加した方々です。女性交流会議の感想や、現在女性が抱えている問題などを中心に活発な議論がなされました。

素晴らしい仲間と出会えて

司会 まず自己紹介と、先日宮崎市で開催された女性交流会議に参加された感想をお願いします。

松木 松木和美です。私は結婚してからずっと女性問題に関心がありまして、今回女性交流会議に応募させていただきました。残念ながら当初期待していたのとはちよつと違ったのですが、これをきっかけに大分市内で活躍していらつしやる女性の方



松木和美さん

々とお会いできたことは私にとって大きな収穫で

植木 現在平成義塾の大分の塾長をしております。植木千恵子です。私も一緒に同行して皆さんと出会ったことが一番の財産だと思っております。良かったです。

小手川 市会議員の小手川恵です。48人の議員の中で女性は2人しかいませんから、やっぱり私たちが果たさなければならぬ役割は大きいと考え、釘宮由美議員と相談して、今回は私が参加させていたいただきました。宮崎に向かうバスの中で皆さんとお話ししながら、こうした方々がしつかり手を結んでいけば男女共同参画の社会に向けて大分市でどう向上させるのかということについては、大きな期待が持てるのではないかと感じていました。

足立 足立文子です。私は平成5年まで大分市議会に籍を置いておりまして、現在は市政推進会議の委員をさせていただいております。平成7年の大分、次の年に開催された佐賀の会議にも参加させていただきましたが、今回の会議では「女性の社会進出は少子社会を加速する?」というこのテーマそのものが女性問題なのではないかなと、出発前から気になっていました。ただ、



足立文子さん

会議に参加した皆さんがそれぞれに素晴らしい女性、また男性だったので、これからも女性政策推進室を中心に、皆さんと一緒に大分市の女性推進のために学習したり提言したりするような力を皆でつけていったらいいなと思えました。

木付 市政推進委員会をさせていただいております。木付トト子です。皆さんと一緒にこれから未来を担う女性のために、若い人たちのために、何かしなきゃならないことがあれば具体的にしたいと思ひ、参画させていただいております。

西村 社会労務士をしておりまして、西村慶治です。会議に出席したきっかけを少しお話ししたいと思います。私は母子家庭で育ち、女性が一人で生きていく大変さを実感し、又私自身、結婚後は自分の方が名字を変えらることでいろいろ不都合な思いを経験しました。それで、なにかできることがあ

ればと、平成8年の大分県の男女共生セミナー講師養成講座に参加したのが縁で、今回の女性交流会議にも出席させていただきました。

がむしゃら社会じゃ意味がない

司会 男女共同参画社会を実現させる上で、女性に対する差別等が、法律的、あるいは社会的に行われているのか、その現状を教えてください。だと同時に、そのことに対する皆さんの意見を聞かせてください。

植木 私が30年以上前に社会に出た時に、同じ職場の女性から「仕事をして(男と)同じ報酬をもららうなら女性という逃げ場所はない。そんな女性特有の甘えをするんだったら22、23歳くらいで辞めて結婚しなさい」と言われたんです。その時は正直言ってもあまり意味がよく分からなかったんですけど、まず、自分の足で立てるように自己を磨き、自分を自分でケアしていくことをモットーにしてみました。

木付 私が36歳の時に夫が急死した時、子供2人はまだ小学生でした。ちょうどその時は仕事を始めて14、15年経った頃で、同期の男性はほとんどん責任のある仕事を

するもんですから、これでもいいんだろかという疑問をもっていたんです。そんな時の夫の死でしたから、上司に「木付さんはもう世帯主になって我々と同じなんだから、出張も残業も同じようにやってもらおうよ」と言われた当初、シヨックでしたが、今はこの人にもすごく感謝しています。そういう状況の中で働いている女性に対して男性側はどうかというと、同じ量



西村慶治さん

だけ働いても、女性の方は家に帰ってさらに家事もしているんです。問題は、男の方は、女性も同じだけ働けと言いつつ、自分は家に帰ったら休んでいる。そういう意味で、これから大分市に参画していく女性に同じような生き方を求めても、受け入れられないと思うんですよ。逆に男の側は、同じように働くんだしたら、自分たちも生活者として自立できることを身に付けていかないと、



植木千恵子さん

子育てネットワークが重要
 小手川 うちが核家族で、基本的に育児の担い手は私と夫しかいないんです。それで、夫も私も遅いと

本当の男女共同参画社会にならないと思うんです。そうですね。私が幼稚園に勤めていたとき、研究会で帰りが遅くなることが多かったんですが、当時は子育て真っ最中で、両親が面倒をみてくれたから仕事に没頭できた。そういう経験から、保育所の時間延長もいけれど、「保育所に子供を迎えにいかなければならぬ時間です」から帰らせていただきます」と、バツとそこから家庭に戻れば子供も母親も幸せなのではないだろうかという事すごく痛感しています。社会が子育てを支援し、社会全体がもっと緩やかな労働で、お互いに家庭を支え合っているような社会をつくっていかねば、男性も女性もむしやりに頑張る社会で参画してもそれは意味がないんじゃないのだからと思います。

木付

以前家にいるお母さん達に意見募集したときに、「自分は四年制の大学を出て、今子育てで家にいる。世の中に残り残されているような空しさを感じている」という作文を見て、やっぱり世の中の価値観を変えなきゃいけないと感じました。その頃は、ちょうど女性が社会参加しようということが出て働いているほうが価値があるという感じだったの、男女共同参画社会というのは、女性の社会参加や夫の家庭参加は勿論ですが、女性が男性化して社会に通用するんではもう意味がないということなんですよ。女性が女性のままで子育てしたり家のことをしたりということ、男性が社会でしていることと同じ価値観で見てもらうようにならないければ、この少子化

いう時には同じ保育所に子供を預けていてる家庭に子供を預けたんです。地域の中でそういう自分たちの子育てでできたことがとても良かった。正直な所、今のお母さんたちは、働いていながら子育てしやすいんじゃないでしょうか。地域の中で働かずに家庭にいる母親というのは、男性が会社人間になっていましてから孤独な子育てをしている。地域の中での子育てのネットワークを作るような施策を市はもっと取り組まなきゃならないのではないかと感じています。



小手川恵さん

専業主婦は価値がナイ?

西村 社会保険労務士という職業柄、女性が制度的に言われるのが保険の103万の壁、税金の130万の壁、これは日本経済において、これは

高度経済成長の中では非常に有効なシステムではあったんですけど、実際には男女性別役割分業という非常に根の深いこの言葉を擁護し、経済効率を優先してきた。このことは、結果として女性の社会進出を拒んでいるにもかかわらず、この

足立

システムの中で生きていく人は気が付かない。自分はこの範囲で働けばいいんだと思っている主婦の方は結構多いんです。しかし、このように一見無関心、無認識でいるようでも、本当はその制度の中で自己実現できていない、自分がなくなっていくというストレスがあるのではないかとこの指摘もあります。そういう心の引っかけを振り起こしていくことも大事なのではないかと思えます。

小手川

今、若いお母さん達の間で、大分市に児童館をつくって欲しいという声がかかり出ているんですけど、私は児童館は地域のコミュニティの場所にもなるのではないかと思うんです。それこそ子育てのお手伝いをしたいという方も来ることでできて、育児に自信をな

いでしょうか。今、若いお母さん達の間で、大分市に児童館をつくって欲しいという声がかかり出ているんですけど、私は児童館は地域のコミュニティの場所にもなるのではないかと思うんです。それこそ子育てのお手伝いをしたいという方も来ることでできて、育児に自信をな



木付チト子さん

松木 私も子育てしていたころに、子育ての終わった先輩から頂いたアドバイスは非常に的確で助かりました。ただそういう場というのはなかなかないですね。

木付

カルチャータ的な社会教育の生涯学習の場だけではなくて、地域のコミュニティ館として、公民館なんか活用していったらいいと思います。そうやって皆で大事にしてあげられるような社会にしていかないと、それが男女共同参画社会であり、少子化の歯止めにもなるし、住みやすい社会づくりにもつながると思います。

司会

こうして皆さんのお話しを伺っていますと、女性を取り巻く問題は実に多岐にわたっていることを痛感いたします。また、それらをひとつひとつほどこいていくと、問題は女性だけではなく、男性や子供の人権にも関わってくるのだということがよく分かりました。ありがとうございます。